

生命を尊重する心情を高める道徳指導の工夫

—三つの視点の資料による短期集中学習を通して—

道徳班 柄沢 五月(小学校教諭)

☆研究の概要☆

児童に生命尊重の心情を育てていくには、様々な視点から考えさせる必要がある。本研究は道徳の時間において、生命を三つの視点でとらえた資料による短期集中型道徳学習を行い、自他の生命を尊重する心情を高める道徳指導の工夫を目指したものである。

＜児童の実態＞

命を大切だと思っている児童は多いが表面的なものである。そのため自分を卑下したり友達を大切に思えず、安易に傷つける言動が多い。



＜視点1＞自己の命の有限性、尊厳性(自己の命)

資料「電池が切れるまで」

(神経芽細胞腫で11歳で亡くなった宮越由貴奈さんの詩を取り入れた資料。)

＜手だて＞

- ・主人公が実際に書いた詩を配布
- ・ロールレタリング(主人公になったつもりで自分に手紙を書く活動)

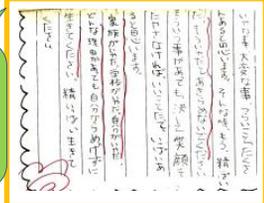
Q中心発問

「『命』の詩を書いているときの由貴奈ちゃんの心の中はどうだったでしょうか。」

命は大切だよ。わかっているけど自信がない。



＜児童A、Bの振り返りのワークシート＞



＜A: 由貴奈ちゃんになったつもりで書いた手紙＞

＜視点2＞自他の生命の尊重(他者の命)

資料「海辺の町を走るバス」

(バスの運転手が線路を歩いている老人を命がけで救ったという資料)

Q中心発問

「バスの運転手はどのような気持ちでおじいさんを助けたのでしょうか。」

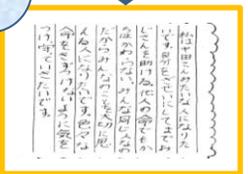
＜手だて＞

- ・中心発問での話し合い活動
- ・自己を振り返る活動

自分を客観的に見つめて書いていた。

Aの発言

「人の命に重いも軽いもない。みんな同じに大切だよ。」



＜B: 授業後の振り返り＞



＜視点3＞生命の社会性(支えられている命)

資料「悲しみに負けないで生きる」

(東日本大震災)

(東日本大震災で母や祖母を亡くした主人公が、多くの人に支えられがんばって生きようとする資料)

＜手だて＞

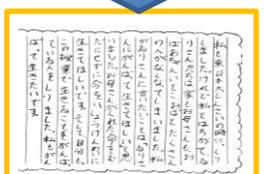
- ・新聞記事を資料にする。
- ・自己を振り返る活動

Q中心発問

「『命』の詩を書いているときの由貴奈ちゃんの心の中はどうだったでしょうか。」

- お父さんや親戚の人が応援してくれている。がんばって生きよう。
- 上手に演奏できたのは友達のおかげだ。がんばらなければ。
- こんなにたくさんの方が応援してくれている。がんばって生きなければ。

がんばって生きていこうとする実践意欲が持っていた。



＜B: 授業後の振り返り＞



＜A: 命の授業を終えて＞視点1の資料の主人公の由貴奈ちゃんへの手紙

短期間
3週間

私もみんなも大切な命を持っている。がんばって生きよう。

☆成果と課題☆

- 児童は短期集中型学習で、様々な視点から命について考えたことにより、自他の生命を尊重しようという心情が高まった。また、自尊感情も育ち自分を大切にしながらがんばって生きようとする実践意欲を育成することができた。今後はその気持ちを大切にしながら、日常生活の中で生かせるよう支援していきたい。
- 短期集中学習は指導計画を踏まえ、学年の実態、児童の実態を踏まえ行っていく必要がある。

